

2023年度 滝川市立高等看護学院
関係者評価委員会議 回答書

1. 開催日時:2024年8月30日(金)10:30~11:20
2. 場 所:滝川市立高等看護学院 会議室
3. 委 員:元看護専門学校 教務課長(実務経験者)
滝川市立病院 看護課長 (実習病院職員)
4. 出席者:滝川市立病院 看護課長、菅谷副学院長、大島教務課長補佐
※元看護専門学校 教務課長(実務経験者)は所用により欠席。書面により提言を頂く。
5. 外部評価委員提言内容

事前配布資料

1. 2023(令和5)年度 滝川市立高等看護学院自己点検・自己評価会議報告書
2. 令和5年度 自己点検・自己評価内容一覧
3. カリキュラム評価アンケート(卒後2年目の自己評価と上司の他者評価)
自己評価回答者7/12人 有効回答率58% 他者評価回答者6/7人 有効回答率85%

(1)滝川市立病院 看護課長(実習病院職員)より、主にカリキュラム評価アンケートについての提言をいただいた。

カリキュラム評価アンケート 分析結果	提言内容	回答
①項目8「対象の持てる力に着目した個別性のある看護を実践する」について ・自己評価と他者評価に乖離がある理由として、評価者と被評価者のキャリアの違いによる「個別性」の意味の捉え方に違いがあるのではないかと。	・2年目看護師は、ラダー2のレベルにあり、到達目標が「標準的な看護ができる」となっているため、その視点からの他者評価となり、乖離した結果となっているのではないかと。 ・卒後2年目に事例検討会を実施しているため、自己評価では個別性のある看護を展開できていると感じていると考えられる。	
②項目1「対象の意思や価値観を尊重し行動する」、項目12「対象の健康状態の回復及びQOLの向上に向けてチームメンバーと協働する」について ・他者評価では、両項目とも	・現任ではストレスマネジメント研修を行っている。卒後2~3年目に漠然とした不安や自信のなさを感じているのは、できていることを相手にわかるよう、ピンポイントでフィードバックするこ	・新カリキュラムで今までの看護過程展開に加え、臨床判断の力について強化している。 ・多重課題や優先度が判断できない時に、発信(報告・連絡・相談)ができる力を身に付けたい。

<p>50%以上「かなり当てはまる」が占めていたが、自己評価では低くなっている。卒業生は、忙しさを業務に集中しており、看護学生の時より話を聴いたりする時間が短くなり、意思や価値観を聞くことができないギャップとして感じていることが考えられる。</p> <p>・忙しい業務の中で「看護の仕事をする意味づけ」が弱くなる可能性がある。</p>	<p>とが不足している可能性がある。何ができていて何が課題なのかが明確にできていないからではないか。</p> <p>・コロナ禍の実習制限があった卒業生のため、優先度や多重課題の経験が不十分で判断に悩む場面があり、そのことが自己評価の低さに繋がっているのではないか。</p>	
<p>③他者評価による「学生時代に身につけておいてほしいこと」について</p> <p>・コミュニケーション能力や接遇などを求める記載があった。コロナ禍で臨地実習の制限があった卒業生のため、適切なコミュニケーション能力を修得する機会が不十分だった。</p>	<p>・先輩がとても優しく、気軽に何でも聞けると好評だが、心理的安全性が高いためか、時折敬語を使わないコミュニケーションが見られる。</p>	<p>・今年度より、長期休暇だけでなく平日もアルバイトが許可となった。社会性やコミュニケーション力などに良い影響が出ることを期待している。</p> <p>・接遇面の指導を強化していく。</p>
<p>④その他</p>	<p>・コロナ禍の卒業生であり、技術に対して不安があるとの声があった。現任では配属病棟の違いによる技術経験の差がなくなるように取り組みを始めている。</p>	

(2)元看護専門学校 教務課長(実務経験者)より、主に自己点検・自己評価についての提言をいただいた。

自己点検・評価	提言内容	回答
<p>①カテゴリーⅢ. 教育課程経営「学生の看護実践体験の保証」について</p>	<p>・主である実習施設についてのみ評価されているように見受けられる。教育目標5から考えると、地域・多職種との連携が学べるようになっており、病院以外での実践体験が保証されているのかという視点をもって今一度評価されてはどうか。</p>	<p>・今後、病院以外の臨地実習の評価も検討していく。</p>

<p>②カテゴリーⅥ. 卒業・就職・進学 について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の到達状況を把握するためのアンケート項目は、教育目標の中位目標とも文言が違うので、新カリキュラムの評価を卒業生の到達状況で行おうとすると、迷いが生じるのではないか。また、カリキュラムの評価に活用するならば、就職状況が高い病院に勤務する卒業生のみならず、対象者を広げる必要があるのではないかと考える。今回のアンケート結果は7名の回収にとどまり、貴校の卒業生の1/3の人数に満たないため、できるだけ回収率を多くし、評価に活用されることを望む。 ・主体的な行動について、卒業生の自己評価と他者評価では、ちょうど一段階の差が認められる。「主体性」とはどのような行動をとれている事なのか、互いに言語をすることで、共通理解をし、適切な自己評価、他者評価につなげられることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目については、今年度のアンケート対象者が旧カリキュラムの卒業生であったため、旧教育目標に対するアンケート項目であった。次年度は、新カリキュラムに合わせた内容でアンケート項目を見直していく。 ・アンケートの集計方法については、次年度検討したい。 ・「主体性」とはどのような行動をとれている事なのか、教員間で共通理解をしていく。
<p>③全体として</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・自己評価を定期的に行い、検討課題が明確になっている。一部、前年と比較し評価点が下がった項目も見受けられるが、これは教員各々が評価に対して理解がすすみ、適切に評価ができ、明確な課題が見えるようになったためと考えられる。自らの課題に気づき、改善していくという自己点検・自己評価の目的に沿っていると評価できる。 ・課題が明確になり改善することが求められるが、今年度重点的に取り組む内容の冒頭には、「教員の欠員があり、各教員の担当授業時間や実習指導時間の増加している中、困難なことが予想される」と記載がある。欠員分の教員の補充も検討されているとは思いますが、新人教員が通常業務ができるまでには、3年ほどかかるうえに、新人教員に対しての指導にも労力が伴う。今年度、重点的に取り組む内容を5点あげているが、業務が増えることで教員にさらに負担をかけることになる。負担が過重となれ 	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムが導入となり、事務員が1名増え、業務の委託は進んでいる。 ・社会情勢の変化から、教員がしなければならない業務量（入学生の確保、ICTの推進、学生の実践力向上に向けた取り組みなど）が増えている。継続課題として、今後教員の人員についても再度検討していきたい。

	<p>ば、学生支援に支障をきたし、組織にとっては大きな損失になる。業務の簡素化や割愛、外部委託などを試みて、今までの業務量を減らすことも合わせながら、課題に取り組まれることを提案する。</p>	
--	--	--